

あがつま



『わたしはぶどうの木、あなたがたはその枝である。人がわたしにつながっており、わたしもその人につながっていれば、その人は豊かに実を結ぶ。

わたしを離れては、あなたがたは何もできないからである。』

(ヨハネによる福音書15章5節)

♪ 讃美歌を歌おう②
 『輝く日を仰ぐとき』(161番)
 讃美歌第二編
 神の創造のわざを歌うこの
 賛美歌は、スウェーデン
 でつくられました。
 作詞者カルル・グスタフ
 ・ボーベリ (1859-1940) は、
 船大工の息子で数年間船員
 として、後に木工を学び故
 郷で木工を教えています。故
 が、19歳の時に回心を経験
 して伝道者となりました。
 この歌詞は、一八八五年
 の夏にボーベリが、スウェ
 ーデン南部海岸のモンテ
 ステロス付近のおとずれた
 時、白昼に激しい雷雨を見
 舞われた後、太陽の輝きを
 見、小鳥のさえずりを聞い
 た彼は、ひざをついて祈り、
 神を賛美してこの詩を書い
 たといっています。
 ボーベリがこの詩を作っ

てから数年後、スウェーデ
 ン中西部に位置するヴァー
 ムランド地方を訪れた際、
 会衆が自分の詩をスウェー
 デン民謡であったこの旋律
 にのせて歌っているの聞い
 て大変驚いたそうです。
 この賛美歌は後にドイツ
 語に翻訳され、さらに20年
 後にロシア語に訳されまし
 た。それをイギリス人宣教
 師が英訳して公表したこと
 で英語圏に広まっていきま
 した。そうした経緯のため、
 ロシアの賛美歌だと間違っ
 て紹介されることも多かつ
 たようです。
 後年、ビリー・グラハム
 の大伝道集会等で用いられ、
 一九五〇年以降、アメリカ
 で急速に有名になり、日本
 でも中田羽後の訳詞で広く
 愛唱されています。
 (稲垣真実)